

冷熱機製造の西山工業（富士市）の営業企画グループマネージャー。1994年に入社し、製造現場などを経験した後に営業畑を歩む。新型ウォータークーラーは緑茶などのティーバッグを使用しやすい工夫を施し、冷茶サーバーとしての需要を見込む。静岡市葵区出身。43歳。

「開発で工夫した点はどこか。」

「市販のティーバッグがそのまま使えて、メンテナンスが簡単なことが顧客ニーズだった。水タンク内にティーバッグ用の仕切りを設け、水をかき混ぜるプロ

新型冷茶サーバー開発を指揮した

望月 康史 さん（富士市）



この人

ペラを磁石で留めるだけに
して洗浄しやすくした」

「ニーズをどうやって把握したのか。」

「試作品を作って展示会で意見を集めた。県の事業で他業種の経営者から厳しい意見もいたとき、市場の要望を重視するマーケティングの考え方を徹底し

た」

「ウォータークーラーの市場は伸びるか。」

「近年は全国で年間1方2千〜1万5千台程度の需要がある程度だが、新製品に付加価値があれば買い替えなどで需要は拡大すると考えている」

「仕事上のモットーは。」

「顧客の要望をできるだけ製品に取り入れることを常に心掛けている。製造から営業までさまざまな部署を経験しているので、具体的な商談を詰めやすい強みがある」

◇ 休日は草野球を楽しむ。